

版瓦町番

ばんちようかわらばん

特集
第41回日本テレビ通り
振興会納涼盆踊り大会

一連載一

第3回
一廻町小学校卒業生
インタビュー

番町をつなぐ
夏の思い出を振り返る

今年も8月に猛暑を忘れさせる納涼イベント、盆踊り大会が開催されました。餅つき大会と並ぶ番町二大イベントのひとつです。今では少なくなったプロの生音に合わせて踊ることのできる盆踊り大会とあって、番町や廻町、九段エリアの住民のほか、千代田区外からも大勢の人々が訪れました。

この大会に欠かせないのが、番町の人々のつながり。住民をはじめ、ゲスト、屋台を盛り上げる地域の学生など皆で一丸となって作り上げます。会場では放水作業を実際に行う消防訓練など、夏ならではのイベントも実施。親子で学べる催しも人気でした。

残暑が続くなか、段々と過ごしやすいい日も増えてきました。本格的な秋の訪れの前に、夏の思い出を振り返ってみてはいかがでしょうか。

第41回
日本テレビ通り振興会納涼盆踊り大会



8月3日(金)、4日(土)に日本テレビ駐車場で開催された番町の夏の恒例行事。会場には大きなやぐらが生まれ、生音演奏の盆踊りが行われました。様々な夜店も並び、番町の庭でのビアガーデンと合わせて多くの人でにぎわいました。

夏の思い出 番町の輪をつなぐ盆踊り大会



皆でつないできた、41回目の開催

ベテランたちが盛り上げる番町の夏

今年の開催はなんと41回目。その長い歴史は、番町に暮らす人々、そして“祭のベテランたち”によって支えられています。盆踊りは生演奏が響きわたり本格的。今年もやぐらを、たくさんの人々がかこみました。

美しい踊りの伝統をつなぐ達人

50周年のベテランチーム

やぐらの上で息の合った踊りを披露するのは、千代田区民謡連盟の皆さん。第1回から参加されている連盟は今年の11月に50周年を迎えます。昭和から平成、そして次の時代へと番町盆踊りの歴史をつなぎます。



お室ショット!

↑先輩方に踊りを教わっていると、楽しい気配を察知したそらジローがやってきました!

盆踊りを作り上げてきた人々

寄席もよろしくね

一門のバトンをつなぐ

代々この盆踊り大会の司会を務める三遊亭團歌一門。今年の司会は昨年に引き続き三遊亭歌扇さん。普段は末廣亭などの寄席で話芸を披露する歌扇さんが、今年も会場を盛り上げました。



盛り上がっていきましょう!

美しい歌声で会場を魅了

歌唱を務めるのはプロの演歌歌手・根本美希さん。美しい歌声に、踊るのを忘れて聴き惚れてしまいそうです。鏡開きでは、やってきたそらジローに夢中になるおちゃめな一面も見せてくれました。

踊ってみよう!

東京五輪音頭 1964

こちらが元祖一世間は来る2020年のオリンピックに沸いていますが、ここで1964版をおさらいしましょう。



今年も盛況のうちに幕を閉じた納涼盆踊り大会。家族や友達、皆で楽しめる番町夏の一大イベントです。にぎやかなお祭の中で見えてきたのは、番町に関わる人々のつながり。今回はそんな“つながり”に注目して、夏の思い出を振り返りました。

縁日で広がる番町のつながり

地域の学生と盛り上げた屋台

紀尾井町にキャンパスを持つ、上智大学のソフィア祭実行委員の皆さんが今年も一緒に屋台を盛り上げてくれます。元気いっぱいな番町の子もたちが殺到し、どの屋台も大忙し。6月の山王祭でも神輿を担いでいた上智大学の学生。地域のつながりを大切にする番町ならではの光景です。



↑祭も終盤、声を張り上げて最後の追い込み



↑右から泉佑馬さん、宇都宮友之祐さん。上智大学・ソフィア祭実行委員を務めます



大集合!

楽しんでね!



仲良し姉妹!



直子さん

春ちゃん

あさひちゃん



光るサンGLラスもあるよ

1



2

①左から小塚彩里さん、濱田百花さん、増田袖月さん。ピカピカ光るグッズやカラフルなおもちゃに子どもたちも興味津々
②暑い中、盆踊りが始まる前から大量の焼きそばを準備!

REPORT

大行列の射的屋台

数ある屋台の中でもひとときわたくさんの子どもたちが集まっていた射的。持ち方や角度を教わりながら目当てのおもちゃを狙います!



本格的な鉄砲にドキドキ。コツを教えてもらいます

蓄光ちゃん



お母さんと一緒に狙ったのは、かわいいキャラクターのフィギュア

あおとくん

思い出は秋につなぐ

鈴虫の鳴き声をお土産に

毎年恒例の鈴虫プレゼントは今年も大人気。盆踊りが始まる前から、整理券のために大行列ができます。夏から秋にかけて美しい声で鳴く鈴虫。たくさんの子もたちが、夏の思い出とともにかわいらしい鈴虫を持ち帰りました。

大事に育ててね!

ゆたかくん



はじめて来たよ!

はるなちゃん



↑盆踊りが始まる前に配られる整理券は、毎年大行列! 虫かごの中は、土やエサまでセットされた立派な鈴虫ハウスになっています

↑この日のために毎年、鈴虫の飼育に協力している五番町会長の横山さん

麹町小学校

—第3回—

麹町小学校卒業生 リレーインタビュー

水野 珠貴さん



1981年卒業。麹町中学校、慶應義塾女子高等学校から慶應義塾大学へ。麹町在住、麹町小学校同窓会の運営にも携わる。

老舗洋菓子店の村上開新堂を家族で経営する水野さん。お店の歴史や麹町の移り変わり、小学生時代のエピソードをうかがいました。

村上開新堂の創業は1874(明治7)年。初代・村上光保の妻茂登が、麹町山元町(現麹町)に洋菓子店を開いたのがはじまりです。「宮中の料理人だった初代は外交政策の一環として洋菓子技術を習得し、皇族や財界人のために洋菓子を製造していたそうです。」水野さんは五代目・山本道子さんの娘で、麹町で生まれ1歳から6歳まで家族とニューヨークで暮らしました。「帰国してからは日本が大好きで、母にいわせると私の日本語は小学2年生くらいまでおかしかったみたいです(笑)」

小学生時代のことで水野さんがよく覚えているのが、一番仲の良かった友だちがアメリカ育ちの自分をかばってくれたこと。「日本語の発音が変わったり、日本の習慣に慣れてなくてときどき突飛な言動や行動をする私を何かにつけて守ってくれたんです。その友だちは、今は麹町を離れてしまいい地元には住んでいませんが、当時はクラス替えがなかったので6年間机を並べて学びました。」

水野さんが小学生時代を過ごした

1970年代ごろまでの麹町は、高い建物がほとんどなく平屋中心の住宅街。1980年代になって中学生、高校生と成長するにつれて住宅は減少し、昔からあった社宅や官舎も取り壊されて大きな建物やオフィスビルに変わって代わるようになりました。このころに麹町から引越してしまっただ友だちも多く、現在地元に残っている小学校の同窓生は数えるほどです。「でも、地元を離れてしまった同窓生とも4、5年前からSNSでつながるようになったんです。一番仲の良かった友だちとも、連絡がとれるようになりました。」

かつてバブル期に向かって盛んに建設されたビル群が、近年マンションに姿を変え始めていることも水野さんにとって明るい出来事です。「麹町に住民が戻り、小さなスーパーや商店もできて住みやすさが増しています。お休みの日に、町に人が歩いているのを見るとうれしくなりますね。」

水野さんの曾祖父で、日本人の舌に合う現在の村上開新堂の洋菓子の基礎を築いた三代目も麹町小学校の卒業生。「麹町という歴史のある地で長くご縁をいただいていることに感謝し、麹町小学校が増々活気ある学校になるように協力したいと考えています。」

今回は ゆうじん 谷 勇伸さん

思い出アルバム

提灯の明かりや太鼓の音、屋台の匂い……。お祭りの空気は写真からも伝わってきます。



盆踊りを引っ張ったベテラン陣の踊り。お揃いの浴衣姿がかっこいい!



やぐらの上で太鼓を叩く、熱いお祭り男たち



夢中になって踊ると、暑さも忘れてしまいます



提灯の明かりに引き付けられ、街行く人も会場へ



色とりどりの華やかな浴衣が着られるのも、盆踊りの醍醐味

8/1~4 Summer Garden @番町の庭

番町の庭がビアガーデンに変身!ハンモックやライブなど大人も子どもも楽しめるイベントに、連日にぎわいました。



ご近所の方々も大勢集まり、大盛り上がり!



クラフトビールのトラック「EL CAMION」



お楽しみの日替わりライブ。この日はBossanova Planの奏者の今井亮太郎さんと、Marimba奏者の亀井恵さんのセッション



ライブもあるよ

番町夏祭りウィーク

盆踊り会場周辺ではビアガーデンや、夏らしい水を使った催しが行われました。

8/3~4 消防訓練 @麹町日本テレビ駐車場

盆踊りが始まる前、会場では消防訓練が行われました。水しぶきを利用した訓練に、子どもたちも大はしゃぎ!

うまくできるかな?



消防団の方々に教わり、いざ挑戦!



消火器の仕組みは複雑!お母さんにも助けてもらいます

次号 11月中旬発行

発行：日本テレビ通り振興会 協力：日本テレビプロデューサー：P.M.A.トライアングル(谷本 裕英) 編集制作・取材・執筆：P.M.A.トライアングル(長谷川 みほ、佐藤 俊介、牧田 麻彩香)、達 弥生 撮影：P.M.A.トライアングル(鎌居 龍一)、山村隆彦 デザイン：アトムスタジオ(鈴木 聖恵)

お問い合わせ：日本テレビ通り振興会「番町まちづくり広場」運営事務局 エリアワークス(株) ☎03-6380-8306 ✉bancho-machihiro@areaworks.jp